

# プレスリリース

報道関係者各位

2025年7月31日  
 高松自動車学校  
株式会社T・D・S

## 2025年10月の外国免許切替制度改正に対応し 高松自動車学校が外国籍ドライバーの交通ルールの理解を支援

高松自動車学校（株式会社T・D・S 高松市上天神町646番地／代表取締役：富家嘉顕）は、外国免許から日本の運転免許への切替制度が厳格化(2025年10月1日施行予定)されることを受け、外国籍ドライバーに向けた交通ルール教育を強化します。制度改正では、知識・技能試験が大幅に難化し、日本の交通ルールへの理解が一層求められるようになります。当校では、多言語対応の学習サポートや新カリキュラムの導入を通じて、地域の交通安全に貢献していく方針です。

### ■制度の概要

2025年10月1日より、道路交通法施行規則における「外免切替」の試験内容が厳格化される予定です。背景として、特定技能での在留外国人の数が、制度が開始されて以降5年で約28万人増加し、在留外国人総数も約376万人と3年連続で過去最多を更新しています。人口の増加に伴い、外国籍ドライバーによる交通事故件数も令和2年の5,441件に対し、令和6年では7,286件に増加しています。<sup>※</sup> また、2025年5月には埼玉県三郷市での小学生を巻き込むひき逃げ事故や、三重県で高速道路逆走事故など重大な事件が発生しました。これらの主な原因としては、現行の試験内容が、日本の交通ルールの理解が十分でない人でも通過しやすい内容となっていたためと考えられています。また、国籍によっては試験の一部または全部が免除されるケースもあり、運転技能も十分担保されていない状態で日本の免許を取得できていたことも原因の一つとされています。

※令和7年版 交通安全白書(内閣府)

### ■改正内容

主な改正点は3つあります。まず、観光などの短期滞在者の利用を防ぐため、「住民票の写し」の提出が義務化され、日本で生活する中長期滞在者のみが免許取得対象となります。次に、知識確認試験が大幅に強化され、従来のイラスト問題10問（7問正解で合格）から、50問の文章問題となり45問以上の正答が必要となります。日本の交通ルールや標識、歩行者優先などをより深く理解しているかが問われる事となります。さらに、技能確認試験も踏切や横断歩道の対応、合図の正確性など、日本独自の安全運転基準を含む内容に見直される方針です。

### ■香川県における外国籍ドライバーの実態

香川県内の外国籍ドライバーの事故件数は公表されていませんが、上記の通り全国的には外国籍ドライバーによる交通事故が年々増加傾向にあります。県内での在留外国人数は2010年約8,000人から2023年には17,312人（約2.0倍）と増加し、<sup>※</sup> 特に技能実習や特定技能などの、運転を伴う仕事に就く人が多く見られます。外国籍ドライバーの方に日本の交通ルールをより理解してもらうことや、香川県では高齢者比率が高く、特に夜間や交差点での事故が多発している現状など、香川県ならではの交通情勢を理解してもらうことが地域の安心・安全な暮らしに直結すると考えます。

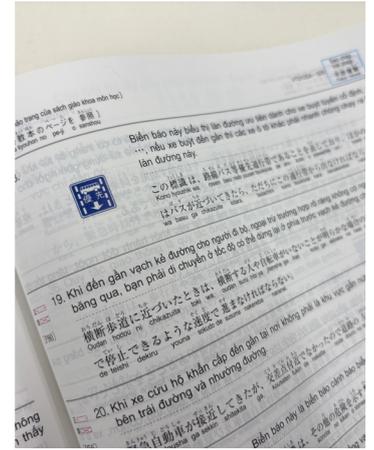
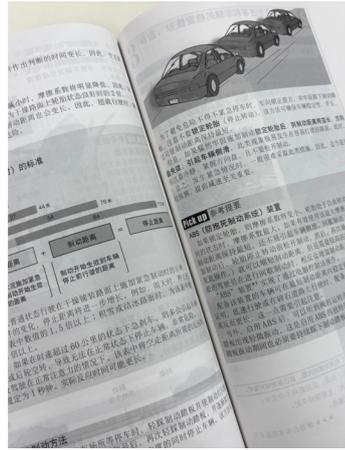
※在留外国人統計(法務省)

## ■対策

今回の制度改正は、免許取得の難易度が上がる一方で、正しい交通ルールの理解を促す機会にもなります。当校はこのタイミングを活かし、外国籍ドライバーの方が適切な知識・技術を身につけ、地域の一員として安心して運転できるよう、学科・技能の両面からのサポート体制を強化します。これまでは運転技能中心の指導であったのに加え、今後は日本の交通ルールや標識、技能試験における危険行為の解説、知識確認テストなど、交通ルールに重点を置いたカリキュラムを追加しました。現在は英語・中国語・ベトナム語・タガログ語・インドネシア語に対応しており、その他の言語については、受講者の母国語対応の教本を取り寄せ、専門チームが学習や手続きのサポートを行う予定です。



技能教習の様子



中国語・ベトナム語対応の学科試験問題集

## ■期待される効果と展望

沖縄県の事例では、多言語での注意看板や路面標示により、外国籍ドライバーの一時停止行動が約3割改善された実績があります。\*このことから、母国語での交通教育を通じた理解促進は、安全運転の実践につながり、香川県内でも交通事故の予防効果が期待されます。また外国人を雇用する企業や自治体（技能実習監理団体、介護事業者など）と連携し、出張講習や団体研修、交通安全講話の提供へと展開していく予定です。

\*訪日外国人レンタカーへのピンポイント 事故対策効果について(内閣府)